



フィンレージの会 活動紹介

2013.5.2

作成:フィンレージの会スタッフ 鈴木良子

1.主な活動

- フィンレージの会は不妊に悩む人・不妊の問題をかかえた人の 自助(セルフヘルプ) グループ。
『不妊-いま何が行われているか』(晶文社) という本の翻訳・出版がきっかけで 1991 年に発足。
- 会報の発行／井戸端会議(おしゃべりの集まり)／のほか、依頼による講演・取材なども積極的に／セミナー等の開催／イベント「レッツ・トーク・不妊！」の開催
- アンケート調査や本の出版
「レポート不妊」
「新・レポート不妊～生殖技術についての意識調査報告」 1999 年 1 月／857 人の体験と思い
「My Choice 不妊治療 わたしらしい選択のために」 「My Dear あなたの身近な人が不妊で悩んでいたら」2005、2008 年、聖路加看護大学とのコラボレーションで作成した冊子。当会 HP より全文ダウンロード可

2.理念と特徴

不妊に悩む人のグループというと「がんばってお母さんになろう！」という会……と思われがちですが「フィンレージの会」はちょっと違います。私たちのめざすものは、大きく分けて次の 3 つです。

- ① 不妊について語り合える場、悩みを分かち合える場。
- ② 不妊治療・生殖技術のリスクや問題点を知ったうえで、納得できる医療が選択できるように。
- ③ 「子どもがいてもいなくても抑圧されず、差別されない社会」をつくることをめざしたい。

★活動に携わってきたスタッフの多くは、子どもを得ることが不妊の唯一の“解決”とは考えていません。なぜなら、出産後も不妊の苦悩から抜けられない人がいるからです。また子どもができなくても元気に人生を生きている人もいますからです。

★もうひとつ、不妊“治療“(特に ART)が万能でないこと(全員が出産できるわけではないこと)むしろ不妊治療にはリスクがあること、治療によって心身共に傷つく例もあることも、知っています。(1990 年代に起こった排卵誘発剤による脳梗塞-半身不随事例なども…)不妊治療で自身の健康を損ねては、本末転倒です。そうしたこと(リスク、出産率等)の情報を十分に得ながら、治療に臨んでいただきたいと思います。

3. 不妊治療現場の動向および課題—私たちスタッフが注視していることから

①不妊治療を受ける人の高齢化—すべての背景？

- * 初産年齢の平均が 30 歳を越えた。不妊治療を受ける人の年齢も併行して上昇。
- * 体外受精を受ける人の年齢＝35 歳未満は 1/3、35-40 歳が 1/3、40 歳以上の人が 1/3
- * ART によって、リスクの高い分娩件数が増加する

②卵子提供による妊娠の増加（当会にも相談がちらほら…）

- * 海外で卵子提供を受けた人の出産が急増。医療機関アンケートによると、2007～2011 年で、確認できただけで計 169 件。米国、タイ、韓国、ロシアもある。* 以上「周産期医療に携わる医師の超高齢出産と第三者生殖技術に対する意識調査」より

<http://www.babycom.gr.jp/ranshi/sql.pdf>

③新型出生前診断（NIPT）の登場

- * 不妊治療を受ける人の高年化にともない、不妊治療による妊娠→出生前診断？
- * ART で産まれた児の大規模フォローアップ調査とも関連。体外受精は特段、児に悪影響はないが、顕微授精は悪影響ありとのこと。顕微授精は全例に出生前診断推奨という施設の存在。

なお、「着床前診断」の動向も気になる。2012 年 7 月 11 日、神戸のクリニックが新型（アレイ CGH 法）による着床前診断を 129 例に実施、翌 12 日には長野のクリニックも着床前診断を実施していた、と報道された（読売新聞）。日本産科婦人科学会は 7 月 27 日「その行為（無申請の施行）を決して容認しないことを言明」と声明を発表。

→習慣流産、不育症に悩む人たちにミスリード？ 着床前診断を行なうと出産率が上昇する、と考えた人も多いようだ。

→不妊治療のビジネス化、「生殖ビジネス」化、という側面も？

（そもそも、加齢を ART “適応” とするのが適切なのか…？）

上記のようなさまざまな側面から、「特定不妊治療助成事業」を考えたいと思っている。

以上

フィンレイジの会

〒162-0067 東京都新宿区富久町 8-27

ニューライフ新宿東 305 号 ジョキ内

メール：finrrage@muf.biglobe.ne.jp

HP： <http://www5c.biglobe.ne.jp/~finrrage/>